

授 業 科 目 名	教育課程総論	担 当 教 員 名	河 合 倫 子	単 位 数	2	授 業 区 分	講 義	開 講 時 期	1年 後 期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>									
<p>(1) 教育課程の意義 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領の内容理解に努め、幼児の発達を考慮した教育課程編成の目的を理解している。</p> <p>2) 幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。</p> <p>3) 教育課程が地域の実態や社会において果たしている役割や機能を理解している。</p> <p>(2) 教育課程の編成の方法 教育課程編成の基本原則及び子どもや地域の実態を踏まえ教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>1) 教育課程編成の基本原則を理解している。</p> <p>2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することが出来る等対応力を身に付ける。</p> <p>3) 学期・年齢をまたいだ長期的な視野から、また、幼児、地域の実態、保護者や地域の願い等を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメント 教科・領域・各年齢をまたいでカリキュラムを把握し幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している</p> <p>2) カリキュラム評価（より良い学びにつなげるため）の基礎的な考え方を理解している。</p>									
<b>【授業の概要】</b>									
幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について保育の全体計画であることや質に関わる重大な課題であること等捉えさせ、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	オリエンテーション・保育で重視していること。				【事後】 保育がつく言葉探しをする。(ICT活用) p2～p9復習する。				
第2回	幼児教育の基本 (保育内容の歴史的変遷と現代の保育について)				【事前】 副読本 保育とは何かを読んで理解する。副 p10～p18 【事後】 本日学んだことを復習し、教科書 p13～p28 大事な箇所を押える。				
第3回	幼稚園教育の基本 序章 第1節 改定の基本的な考え方 2 改訂の要点				【事前】 幼稚園教育要領解説 序章を読む。P2～p9 【事後】 振り返りをする。				
第4回	幼稚園教育の基本 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項 (1) 幼児期にふさわしい生活の展開 (2) 遊びを通しての総合的な指導 (3) 一人一人の発達の特性に応じた指導				【事前】 幼稚園教育要領解説 p10～p40 【事後】 授業の振り返りとともに、5領域を押え、覚える。(振り返り)				
第5回	幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項 4 計画的な環境の構成 5 教師の役割				【事前】 幼稚園教育要領解説 p33～p49 【事後】 授業の振り返り 領域の押さえ				
第6回	幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説 p96～p109 指導計画の考え方 2 指導計画作成上の基本的事項 3 指導計画作成上の留意事項				【事前】 教科書1節を読み、大事な箇所にアンダーラインを引く。 【事後】 授業の振り返り 副読本 p27～p36 「教育課程」・「全体的な計画」から「指導計画」へを読み授業理解を深める。				
第7回	教科書 第1章 幼児教育の基本と教育課程 p2～p10				【事前】 教科書を読み、幼稚園教育について理解する。 【事後】 授業の振り返り及び、副読本第3章をまとめる。				
第8回	教科書 第3章 1節 幼児のあそび 2節 あそびのなかでの学び 3節 幼稚園と小学校の連携				【事前】 あそびのと学び 第3章を読む。教科書p30～p42 【事後】 授業の振り返り 副読本 第3章を読む。				
第9回	あそびと学び (DVDを通しての考察・グループワーク) 副読本 第3章 幼稚園の理解 p37～p66				【事前】 保育における「あそび」について読む。 【事後】 DVD振り返り 「幼稚園教育要領解説」を読む。(第1章3節)				
第10回	発達の理解と教育課程の編成 (発達を理解することの重要性について)				【事前】 教科書第5章を読む。特に保育者の発達観、保育観を理解する。 【事後】 授業の振り返り より深い発達理解のためにまとめる。				
第11回	特色ある幼稚園づくりと教育課程				【事前】 教科書第6章を読む。副読本第3章の2を読んで理解する。 【事後】 授業の振り返り とくに指導計画と教育課程の関係をまとめる。				
第12回	教育課程の評価・改善 (実施されたその内容及びその成果と課題迄カリキュラムに含まれることの理解)				【事前】 教科書第7章を読む。PDCAサイクルについて理解を深める。 【事後】 授業の振り返り 副読本第3章のワークをする				
第13回	幼稚園における教育課程編成の実際を中心にグループワークにて行う				【事前】 教科書第8章を読む。副読本発表箇所をまとめる。 【事後】 副読本グループ発表の役割分担箇所を分かりやすくまとめる。				
第14回	幼稚園における教育課程編成の実際を中心にグループディスカッションにて行い、まとめ→発表				【事前】 プレゼンの方法を研究し、伝わりやすい内容にする。 【事後】 プレゼンの振り返りを行う。				
第15回	時代の変化と新たな保育内容及びまとめ				【事前】 教科書第10章、第11章を読む。興味のある内容をまとめる。 【事後】 15回の授業内容を振り返る。				

<p><b>【学生に対する評価】</b>  定期試験（70％） 予習・復習 小テスト（10％） 授業への取り組み（20％）等による総合評価</p>
<p><b>【テキスト及び参考書】</b>  「教育課程総論」（北大路書房） 平成21年3月  「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館）  「幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開」（フレーベル館）  「教育課程・保育の計画と評価」 一書いて学べる指導計画—  「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）</p>
<p><b>【学生へのメッセージ】</b>  教育課程を編成するにあたっては、幼稚園教育要領及び幼稚園教育要領解説に書かれている内容に日頃から触れていしましょう。また、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や5領域は特に、頭に入れていしましょう。</p>
<p><b>【備考】</b>  必ず、予習・復習をしておくこと。毎時間の確認は小テストや振り返りプリントで行う。  面倒がらずに細めに学習すること。</p>
<p>実務経験：昭和52年4月より平成23年3月まで（33年間）、北九州市福祉事業団の保育所にて保育士として勤務。  平成23年4月より現在に至まで、本校専任教員として勤務。</p>
<p><b>【担当教員の連絡先等】</b>  担当教員E-mail:kawai@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:</p>

授業科目名	幼児と言葉	担当教員名	上森 哲生	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年前期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> (1) 言葉のもつ意義と機能 1) 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明できる。 2) 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきも含めて説明できる。 (2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践 1) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 2) 言葉の楽しさや美しさに気づき、具体的な例を挙げて説明できる。 3) 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 (3) 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 1) 幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。 2) 児童文化財（絵本の読み聞かせ・詩の語り・わらべうた等）について、基本的な知識を身に付ける。 3) 幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。									
<b>【授業の概要】</b> 幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために、領域「言葉」の指導の基盤となる基礎的知識を身に付ける。「言葉」の機能を理解した上で、幼児にとっての「児童文化財」の意義を理解し、わらべうたや絵本・言葉遊び等の実践に取り組む。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	保育の基本と領域「言葉」 (保育の基本と保育内容 言葉の力を育てる保育)			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をファイリング、授業レポートの作成					
第2回	人の育ちと言葉の役割 (言葉の持つ意義と機能 言葉の育つ土台)			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をファイリング、授業レポートの作成					
第3回	領域「言葉」のねらいと内容 (乳児・未満児・以上児と10の姿との繋がり)			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をファイリング、授業レポートの作成					
第4回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の意義と実際（絵本の読み聞かせについて）			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をファイリング、授業レポートの作成					
第5回	乳児と3歳未満児の言葉の発達と大人の役割 (赤ちゃんの凄さ・0～3歳までのねらいと内容)			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 読み聞かせ・語り掛け・詩の語りの復習。					
第6回	3歳以上児における言葉の発達と大人の役割 (ICTを活用し、保育への取り入れ方を考える)			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 課題プリント、教材準備					
第7回	小学校との接続（話し言葉から書き言葉へ） (保育から教育へ・地域社会との連携)			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 グループワークでの内容をもとに指導案を作成する					
第8回	言葉の関わりに配慮を要する乳幼児と保育 及び 振り返りとまとめ（1日30分の語り掛け）			【事前】 テキストや配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をファイリング、授業レポートの作成					
<b>【学生に対する評価】</b> 授業への取り組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業での学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習））（20%）、定期試験（50%）等による総合評価									

**【テキスト及び参考書】**

保育内容「言葉」太田光洋 同文書院  
よくわかる0～5歳児の絵本の読み聞かせ（チャイルド本社） 絵本は心のへその緒（NPOブックスタート）  
「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）  
「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館）  
「いっしょにあそぼうわらべうた」各0.1.2歳児・3.4歳児・5歳児クラス編（明治図書）、  
「わらべうたと子ども」（古今社）、「幼稚園、保育園のわらべうたあそび秋、冬」（明治図書）他

**【学生へのメッセージ】**

授業の準備としての予習もしくは、課題プリント、及び復習やまとめに関するノート整備などの授業内容の理解に努めること。資料をまとめるファイルを各自準備しておくこと。

**【備考】**

実務経験：昭和49年4月より平成22年3月まで福岡県立高等学校の教諭・教頭・校長を歴任  
平成23年4月より平成24年3月まで、東海大学福岡短期大学 学長付として勤務。  
平成24年4月より平成25年3月まで（1年間）、学校法人戸早学園 北九州リハビリテーション学院 院長として勤務  
平成25年4月より令和 5年3月まで（9年間）、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 校長として勤務。  
令和5年4月より現在に至るまで、本校非常勤講師として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail:

学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	保育原理	担当教員名	河合 倫子	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	1年前期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>									
<p>「保育原理」という授業科目は、乳幼児期の人間形成を社会的・組織的・計画的に行う場としての保育所と幼稚園を主な対象とし、それぞれの目的と保育の目標、保育の基本、保育の内容・計画・方法等について、法令と制度に基づき原理的かつ体系的に理解することをねらいとするものです。</p> <p>保育者（保育士や幼稚園教諭）には上記の専門的知識・理解が必要不可欠ですが、保育所や幼稚園での保育という仕事は一人で行うものではなく、上司や先輩・同僚、そして保護者との連携・協力なしに行うことはできません。したがって、受講生の到達目標は、上記の専門的知識・理解を「覚える」だけでなく、それを保護者等にも分かりやすく「説明できる」といえます。</p>									
<b>【授業の概要】</b>									
この授業は、保育所と幼稚園の特徴、それぞれの目的、目標、保育の基本、保育内容の考え方と組み立て方、保育の計画と方法の原則、それぞれの社会的役割などについて専門的な知識・理解を修得することに主眼を置き、以下のように概説していきます。									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	オリエンテーション(授業内容と計画、教科書の使い方、諸注意、試験方法と評価基準等)			【事前】シラバスに目を通し、授業に持参すること 【事後】シラバスの該当箇所の確認と復習					
第2回	保育の意義と基本的性格(養護と教育)			【事前】教科書の指定箇所の予習 【事後】教科書の指定箇所、ノートの整理・復習					
第3回	保育の環境(人的環境としての保育者)			【事前】教科書の指定箇所の予習 【事後】教科書の指定箇所、ノートの整理・復習					
第4回	幼稚園と保育所(学校と児童福祉施設)			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第5回	幼稚園の目的と教育目標			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第6回	幼稚園教育の基本と指導の原則			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第7回	保育所の目的と保育目標			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第8回	保育所保育の基本と指導の原則			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第9回	幼稚園・保育所における子育て支援			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第10回	認定こども園と家庭的保育事業			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第11回	保育内容の分類と編成(ねらいと内容)			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第12回	保育内容の分類と編成(領域)			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第13回	教育課程・全体的な計画と指導計画			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第14回	保育形態と保育方法			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理					
第15回	保育の現状と課題			【事前】配布プリント、教科書の指定箇所の予習 【事後】配布プリント、教科書、ノートによる授業全体の復習					
<b>【学生に対する評価】</b>									
<p>受講態度・授業への取り組み(20%)、小テスト(10%)、定期試験(70%)を総合して学習到達度を評価します。</p> <p>なお、保育者には保護者等に対する適切な説明能力、日本語表現能力が必要不可欠なので、定期試験は論述式の筆記問題を中心に出題します。</p>									

**【テキスト】**

- ①田中敏明 編著「コンパス 保育原理－未来を生きる子どもの保育－」（建帛社）
- ②「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）
- ③「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）
- ④「[幼保連携型認定こども園 教育・保育要領]」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館）

**【参考書】**⑤教育課程・保育の計画と評価（萌文書林）

授業の中で適宜紹介します。

**【学生へのメッセージ】**

- ①授業中は単に板書を書き写すだけではなく、積極的にノートやメモをたくさんとって下さい。
- ②必要に応じて書き込み式のプリントを配布しますが、上記のテキストとノートは毎回持参して下さい。
- ③授業中に質問や疑問があれば遠慮なく挙手して下さい。また、毎回の授業は必ず復習をして下さい。
- ④保育所や幼稚園が求めている人材は、子ども好きで元気で明るいというだけではありません。それに加えて、上司や同僚、そして保護者と適切な人間関係が結べるかどうかを重視されています。そのため、実習では積極的な姿勢や態度はもちろん、礼儀作法や言葉遣いが重視され、採用試験では作文、面接、集団討論が重視されています。この授業では、実習や採用試験の際の実例をできるだけ多く紹介していく予定です。またその時に困らないよう、「当たり前」を「当たり前」にできるスキルが身につくよう指導して行きます。

**【備考】**

実務経験：昭和52年4月より平成23年3月まで(33年間)、北九州市福祉事業団の保育所にて保育士として勤務。

平成23年4月より現在に至まで、本校専任教員として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	保育実習 I (保育所)	担 当 教員名	河合 倫子	単位数	2	授業 区分	実習	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 保育現場において、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。									
【授業の概要】									
・実習は、保育実習での意義や目的を理解するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。併せて、子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・この実習を通して学んだ課題を明確化し、次回の実習へ前向きに取り組めるようにする。									
【授業計画】									
第1週	①保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり実習施設について理解する。								
	②保育所保育指針に基づく保育の展開 保育所の一日の流れを理解し、参加する。								
	③子ども理解 子どもの観察とその記録による理解 (観察の視点を学び、観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する。)								
	④子どもの理解 子どもの発達過程の理解 子どもの援助や関わり								
	⑤保育の計画に基づく保育内容 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。								
	⑥子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境								
	⑦記録や保護者とのコミュニケーションを通して、保護者支援や家庭地域社会を理解する。								
	⑧子どもの健康と安全について理解する。 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。								
第2週	⑨専門職としての保育士の役割と職業倫理・保育士の業務内容を具体的に学ぶ。職員間の役割分担や連携・協働								
	⑩保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価								
	⑪他者評価と自己課題 自己との向き合い方 (次の実習に向かうための)								
( 実習期間 ) ( 実習園 ) 別途記載する。									
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況などの総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)									
「保育所保育指針解説書」(平成30年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「幼稚園教育要領解説書」(平成30年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「保育実習(保育所)の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)									
「保育方法・指導法」(ミネルヴァ書房)									
【学生へのメッセージ】									
・保育実習期間中の、質問や疑問、様々な不安などは、一人で抱え込むことのないよう担当に相談してください。実習園においても、学校においても、「報告、連絡、相談」を常に心がけましょう。(担当者への連絡や着信への応答はメールで済ませない。) ・保育実習という大切な機会を活かし、多くの子どもと関心をもって、接するように心がけましょう。 ・実習では、子どもの興味や関心、発達の状態を知り、子どもへの理解を深めましょう。 ・保育士という専門職の理解や保護者支援について学ぶことが出来るよう意欲的に実習に臨みましょう。									
【備 考】									
※戸惑いや緊張感を少しでも緩和するべく、事前に乳幼児の発達に対する学習は必要です。また、皆の前で、自分の考えていることや思いが伝わるように発言する事も大事です。声の大きさの調整に気を配りましょう。									
実務経験：昭和52年4月より平成23年3月まで(33年間)、北九州市福祉事業団の保育所にて保育士として勤務。									
平成23年4月より現在に至まで、本校専任教員として勤務。									

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail : kawai@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:



授業科目名	保育実習指導 I (保育所)	担当教員名	河合 倫子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益を考えプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所での保育実習の意義や目的を理解すると共に、保育所における子どもの人権や、最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようにする。</li> <li>・ 実習の計画、実践、観察、記録、自己評価の方法や内容について、観察眼を育成しながら具体的に理解できるようにする。また、子どもの主体性や心の動きを捉えられる感性の大切さに気づかせていく。</li> <li>・ 保育参加・補助の方法・子ども理解の方法等DVD等も活用しながら理解できるようにする。</li> <li>・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い自己課題を明確化し、次の実習に繋がられるようにする。</li> </ul>									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育実習の意義 プライバシーの保護と守秘義務			【事前】 手引きに目を通す。 【事後】 授業の振り返りと全国保育士会倫理綱領の確認。					
第2回	(1) 実習の目的 DVD視聴 (2) 実習の概要 保育所の生活とあそび			【事前】 手引きを通し、実習の目的・施設の概要を読んでおく。 【事後】 DVD視聴振り返り 保育所の生活等の学びを整理する。					
第3回	観察実習事前指導 観察の視点・子どもの人権と最善の利益の考慮			【事前】 手引きの保育所観察実習についてを読んでおく。 【事後】 授業の振り返り。観察について「実習日誌の書き方」を読む。					
第4回	観察実習事後指導 実習における観察、記録及び評価			【事前】 日誌、自己評価、アンケート等書いておく。 【事後】 授業内容の整理・復習・今後の手順を押えておく。					
第5回	保育実習 I (保育所) の課題・実習日誌記入の仕方 (2歳児演習)			【事前】 観察実習を踏まえ、手引きの保育実習 I を読んでおく。 【事後】 授業の振り返りと2歳児の日誌を書く。					
第6回	手遊び、読み聞かせ演習			【事前】 お気に入り絵本 (未満児向け) を読み込んでくる。 【事後】 手遊び3つを覚える。(観察実習) 授業内容を整理する。					
第7回	実習日誌の書き方 (5歳児演習)			【事前】 5歳児の日誌の環境整備と援助・配慮を整理し、記入し直す。 【事後】 授業内容 (保育者○・実習生●分けて書くことに慣れる)					
第8回	教材作り (パネルシアター)			【事前】 パネルシアター色塗り、切り離しを終えておく。 【事後】 グループで演習をする。					
第9回	グループワーク (パネルシアター演習)			【事前】 効果的な発表の仕方を研究する。 【事後】 振り返り。					
第10回	保育実習 (保育所) の課題・指導案の作成 実習における計画と実践			【事前】 保育実習 I に向けての自己課題を明確にする。 【事後】 指導案の仕上げをする。					
第11回	グループワーク (素話発表)			【事前】 冬休み期間中に素話 (昔話) を覚える。 【事後】 振り返り。素話を3つ選び、覚える。					
第12回	グループワーク (模擬保育)			【事前】 指導最案を見ることなく行えるようにシミュレーションの練習。 【事後】 評価と振り返り。					
第13回	保育実習 I (保育所) 事前指導 (外部講師による実習直前授業)			【事前】 振り返りを基に再度教材研究をする。 【事後】 特別授業の振り返り。					
第14回	保育実習 I (保育所) 事後指導 実習の総括と自己評価 課題の明確化			【事前】 日誌の仕上げ、自己評価、アンケート等を書いてくる。 【事後】 今後の流れを押え、お礼状の清書をしておく。					
第15回	実習報告会			【事前】 各園の特色を整理しておく。 【事後】 次の実習に向け、自己課題を明確にする。					

**【学生に対する評価】**

受講態度、教材用作品（パネルシアター）演習、実習に対する取り組みや意欲・日誌・指導案・提出物これらによる総合評価 ※ 手遊び、あそび歌、わらべ歌、素話等学生の前で発表する機会を多く取り入れ、評価する。

**【テキスト及び参考書】**

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社）

「新聞紙で遊ぼう」（かもがわ出版）

「保育方法・指導法」（ミネルヴァ書房）

**【学生へのメッセージ】**

目の前の課題に真摯に取り組むことで、振り返ると必ず、自信につながっていきます。一つ一つ小さな積み重ねが、あなたの未来を拓いてくれます。

保育者としてのスキルを一つ一つ身に付け積み重ねていくことで、自信に繋がり、モチベーションも上がります。

後ろ向きでなく、やるべきものとの自覚で目の前の一つひとつ丁寧にやり遂げてください。結果は、後からついてきます。

**【備考】**

※乳幼児の発達理解の重要性が分かり、学び取る努力をすること。内容総論の授業内容や子どもの発達を常に意識すること。各授業内で学んだうた遊びやわらべ歌、作成した折り紙や、ウレタン人形など活用する努力を惜しまない。事前準備、事前学習、授業振り返り、グループワークは、毎回行うので、プリント類のファイルの仕方を工夫すること。

実務経験：昭和52年4月より平成23年3月まで（33年間）、北九州市福祉事業団の保育所にて保育士として勤務。

平成23年4月より現在に至まで、本校専任教員として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail:kawai@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授 業 科目名	保育内容総論	担 当 教員名	後藤 伸子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育内容」の関連を理解する。									
2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。									
3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。									
4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。									
【授業の概要】									
・動画の視聴や事例の検討を通して、保育現場の生活や遊びの中で、子どもがどのような経験をしているか、それが5領域のねらい・内容とどのようにつながっているかについて学ぶことができるようにする。また、保育者としてどのように子どもの発達を捉え、保育内容、保育環境の構成、援助の在り方等を実践していくかについて理解できるように授業を展開する。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育内容総論の理解のために				【事前】 シラバス・教科書の序章を読んでおく。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第2回	なぜ保育内容総論を学ぶのか 「総論」であることの意味・保育の場が目指すこと・ 保育内容を総合的に捉える				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第3回	保育内容の歴史の変遷とその社会背景				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第4回	子どもの発達や生活に即した保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第5回	養護と教育の一体性とは				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第6回	子どもの生活と保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第7回	子どもの遊びと保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第8回	環境を通して行う保育 DVD視聴				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第9回	保育における「領域」①				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第10回	保育における「領域」②				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第11回	多様な保育の場における保育内容①				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第12回	多様な保育の場における保育内容②				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第13回	様々な配慮を要する子どもの保育				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第14回	小学校との接続				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第15回	現代社会の特質と保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				

<p><b>【学生に対する評価】</b>  定期試験(60%)、小テスト(20%)、発表など受講態度(10%)、提出物(10%)による総合評価</p>
<p><b>【テキスト及び参考書】</b>  「演習 保育内容総論」(萌文書林) 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(チャイルド社)  幼児理解に基づいた評価(平成31年3月 文部科学省)(チャイルド社)  幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)  「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)  「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)</p>
<p><b>【学生へのメッセージ】</b>  学生の皆さんの主体的な学びの交流が生まれるようグループワーク等の機会を多く取り入れていきます。保育内容を総論として捉えることの意味を理解し、「目指す保育者像」・「求められる保育者」を共に考えていきましょう。なお、単位取得をするうえで1コマの授業につき90分程度の事前事後学習が必要です。事前学習として教科書に目を通して授業に臨むこと、事後学習として授業で配布した資料等をもとに復習することを習慣としていきましょう。教員と学生、学生同士の対話を通して、学び合える授業にしていきたいと考えています。</p>
<p><b>【備考】</b>  実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。  令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。</p>
<p><b>【担当教員の連絡先等】</b>  担当教員E-mail:gotou@tohaya.ac.jp  学校専用E-mail:</p>

授業科目名	言葉指導法Ⅰ	担当教員名	柴田 康弘	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>									
<p>幼児の言葉に関する実態や課題を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた上で、具体的な保育の場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育構造の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 保育実践とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>									
<b>【授業の概要】</b>									
<p>幼稚園教育要領「言葉」のねらい及び内容について学ぶ。子どもの言葉の発達過程を理解し、具体的な指導を想定して言葉の育ちを促す保育教材の製作等を行う。また、授業で学んだことを活かし、附属幼稚園の幼児への「おはなし会」を行い、グループワークでの教材研究や模擬保育、終了後には振り返りを行い「コミュニケーション能力の育成」「子どもへの配慮・思いやり」「観察眼の育成」を目指す。</p>									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	幼児教育の基本と領域「言葉」				【事前】「幼児と言葉」の資料を振り返る				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	言葉を豊かにする保育環境				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第3回	言葉の発達を促す児童文化財 (紙芝居の実際)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	言葉の発達を促す児童文化財の実際 (「紙芝居」の教材研究・グループワーク)				【事前】紙芝居の実演の準備、練習				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	領域「言葉」のねらい及び内容の理解				【事前】幼稚園教育要領解説の指示された箇所を通読しておくこと				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	乳児期の「言葉」と他領域との関り				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第7回	言葉を育む環境と援助① (気になる子どもへの言葉の発達のサポート)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第8回	言葉を育む環境と援助② (日本語を母語としない子どもへの関りを考える)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第9回	「語り掛け育児」と「絵本はへその緒」				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第10回	5歳児の言葉を育てる指導の実際 (附属幼稚園「おはなし会」に向けて5歳児の幼児理解)				【事前】おはなしサイコロの発表準備				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第11回	5歳児の言葉を育てる指導と指導計画 (「おはなし会」での指導案の作成、教材研究・グループワーク)				【事前】児童文化財の準備、配布資料の通読				
					【事後】グループワークの内容をもとに指導案の作成				
第12回	5歳児の言葉を育てる指導計画の構想 (「おはなし会」のシミュレーションと改善)				【事前】指導案の作成、シミュレーションの準備				
					【事後】シミュレーションを振り返り、指導案の改善				

第13回	5歳児の言葉を育てる指導計画の実践 (附属幼稚園交流授業「おはなし会」の実施)	【事前】 「おはなし会」の準備、シミュレーション 【事後】 「おはなし会」の振り返りと自己評価の記入
第14回	5歳児の言葉を育てる指導計画の実践の評価と改善 (附属幼稚園交流授業「おはなし会」の振り返り)	【事前】 自己評価を発表できるように整理しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成
第15回	まとめ：子どもの言葉を育み、豊かにする保育 (「言葉」をめぐる現代の課題をICTにて調べる)	【事前】 配布資料を通読、ファイルをまとめ提出 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成
<b>【学生に対する評価】</b> 授業への取組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業の学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習））（20%）定期試験（50%）等による総合評価		
<b>【テキスト及び参考書】</b> <テキスト> コンパス 保育内容「言葉」第2版(建帛社) 「絵本はこころのへその緒」松居直 (NPOブックスタート) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) <参考書・参考資料等> 「いっしょにあそぼうわらべうた」各0.1.2歳児・3.4歳児・5歳児クラス編 (明治図書) 「わらべうたと子ども」(古今社)、「幼稚園、保育園のわらべうたあそび春、夏」(明治図書)他		
<b>【学生へのメッセージ】</b> 演習では実際に体を動かして学んでいきます。動きやすい服装で授業に臨むこと。 授業では、資料も配布します。ファイルを準備してください。授業の初めには前回の授業の復習も行います。		
<b>【備考】</b> 実務経験：昭和57年4月より平成29年3月まで（33年間）福岡県公立高等学校の教諭・教頭・校長歴任。 平成28年4月より平成29年3月まで（1年間）私立常磐高等学校 講師として勤務。 平成29年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園 園長として勤務。 令和 5年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 校長として勤務。		
<b>【担当教員の連絡先等】</b> 担当教員E-mail：		
		学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	言葉指導法Ⅱ	担当教員名	柴田 康弘	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>									
<p>幼児の言葉に関する実態や課題を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた上で、具体的な保育の場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育構造の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 保育実践とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>									
<b>【授業の概要】</b>									
<p>領域「言葉」の指導の理解を深め、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。「言葉」の機能を理解したうえで、幼児にとっての「児童文化財」の意義を理解し、わらべうたや絵本・紙芝居・言葉遊び等の実践に取り組む。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。</p>									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	幼稚園教育要領「言葉」と評価について				【事前】幼稚園教育要領解説(範囲は事前に提示)を通読して				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	実習を通して体験した子どもの言葉の育ちと課題についてのグループ討議(実習記録などを準備)				【事前】実習日誌、記録等の準備				
					【事後】グループワークでの内容をまとめ発表準備				
第3回	実習を通して体験した子どもの言葉の育ちと課題についてのグループ発表				【事前】発表資料の作成、準備				
					【事後】他のグループの発表内容をまとめ、授業レポートの作成				
第4回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する①(オペレッタの制作)				【事前】オペレッタ制作の準備				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する②(オペレッタの実演)				【事前】オペレッタ実演の準備				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する③(オペレッタの振り返りと評価)				【事前】オペレッタの振り返りを記入しておく				
					【事後】授業レポートの作成、授業レポートの作成				
第7回	言葉に対する感覚を豊かにする実践①:「わらべうた」(日本文化とわらべうたの実際、乳児)				【事前】配布資料を通読しておくこと				
					【事後】授業レポートの作成、遊びを復習する				
第8回	言葉に対する感覚を豊かにする実践②:「わらべうた」(日本文化とわらべうたの実際、幼児、児童)				【事前】配布資料を通読しておくこと				
					【事後】授業レポートの作成、遊びを復習する				
第9回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践の構想(かるた遊び)				【事前】配布資料を通読しておくこと				
					【事後】創作かるたの制作				
第10回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践の実践(創作かるた遊び)				【事前】グループでかるた制作、資料準備				
					【事後】他のグループの発表内容について授業レポートの作成				
第11回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財(幼児の年齢や時期を考えた物語の発表)				【事前】クリスマス絵本の準備				
					【事後】授業レポートの作成、演習内容の復習				

第12回	言葉による「伝え合い」を育む保育者の関りの実際 (DVD視覚教材から学ぶ)	【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】授業レポートの作成、演習内容の復習
第13回	言葉と国語教育 (幼児教育から小学校の教科のつながり)	【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成
第14回	幼児の話し言葉と書き言葉の実際 (附属幼稚園年長児と触れ合い交流授業)	【事前】配布資料を通読し、交流授業のねらいの確認 【事後】交流会の振り返りの記入、授業レポートの作成
第15回	豊かな言葉を生み出す基盤	【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料をまとめ、授業レポートの作成
<p><b>【学生に対する評価】</b>            授業への取り組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業での学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習）（20%）、定期試験（50%）等による総合評価</p>		
<p><b>【テキスト及び参考書】</b>            &lt;テキスト&gt;            コンパス 保育内容「言葉」第2版(建帛社) 「絵本はこころのへその緒」松居直 (NPOブックスタート)            「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館)            「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館)            「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)            &lt;参考書・参考資料等&gt;            「いっしょにあそぼうわらべうた」各0.1.2歳児・3.4歳児・5歳児クラス編 (明治図書)            「わらべうたと子ども」(古今社)、「幼稚園、保育園のわらべうたあそび秋、冬」(明治図書)</p>		
<p><b>【学生へのメッセージ】</b>            演習では実際に体を動かして学んでいきます。動きやすい服装で授業に臨むこと。            授業では、資料も配布します。ファイルを準備してください。授業の初めには前回の授業の復習も行います。</p>		
<p><b>【備考】</b>            実務経験：昭和57年4月より平成29年3月まで（33年間）福岡県公立高等学校の教諭・教頭・校長歴任。            平成28年4月より平成29年3月まで（1年間）私立常磐高等学校 講師として勤務。            平成29年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園 園長として勤務。            令和 5年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 校長として勤務。</p>		
<p><b>【担当教員の連絡先等】</b>            担当教員E-mail： <span style="float: right;">学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp</span></p>		



授業科目名	幼児理解論	担当教員名	後藤 伸子	単位数	2	授業区分	演習	開講時期	2年後期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> 授業を進めるにあたっては、学生が積極的に参加するよう討論形式や保育カンファレンスなどのグループを中心とした授業形態を考えている。以下の5点を目標にして取り組む。 ①保育を行うには、まず一人一人の子ども理解に努めることが出発点であることを学習する。 ②子どもの思いや育ちを丁寧に捉え、その内実を理解し、援助のあり方を考えていくことを学習する。 ③子どもが見せる姿や行為、育ちを読み取る視点と保育者の関わりが関係していることを学習する。 ④子ども理解を深める観察や周囲との連携の取り組み方など、保育者の専門性の根幹について学習する。 ⑤幼児教育の現状と課題を認識し、保育者としての心構えに関する基礎力を育成する。									
<b>【授業の概要】</b> 保育を志している学生には必修科目であるこの科目を通して、幼児理解の基本、保育者としての姿勢について学び、よりよい保育を創り出すための意識を高めることが出来るようにする。その中で、子ども一人一人を理解し評価することは、保育者自身を振り返り評価することにつながることを理解し、将来幼児教育に携わる者としての自覚をもたせたい。									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義			<b>【事前】</b> 教材の準備、確認をする。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第2回	子どもに対する関わりと共感的理解			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第3回	子どもの生活や遊び			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第4回	保育における人的環境としての保育者と子どもの発達			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第5回	子ども相互の関わりと関係づくり			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第6回	集団における経験と育ち			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第7回	発達における葛藤やつまづき			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第8回	保育の環境の理解と構成			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第9回	環境の変化や移行			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第10回	子ども理解のための観察・記録・省察・評価			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第11回	子ども理解のための職員間の対話			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第13回	発達の課題に応じた援助と関わり			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第14回	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第15回	発達の連続性と就学への支援			<b>【事前】</b> 教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 <b>【事後】</b> 試験に向けて全体の振り返りをする。					
<b>【学生に対する評価】</b>									

定期試験(60%)、実践内でのレポート(20%)、受講態度(20%)等による総合評価

**【テキスト及び参考書】**

参考図書

「幼児理解に基づいた評価」(平成31年3月 文部科学省)(チャイルド本社)

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(令和3年2月 文部科学省)(チャイルド本社)

「指導と評価に生かす記録」(平成25年7月 文部科学省)(チャイルド本社)

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)

**【学生へのメッセージ】**

2年生は実習学年といわれように、子どもと多く触れ合う機会があります。その中で、疑問に思ったこと、対応に困ったことなどを授業中に積極的に話題提供し、学びをより深められるように記録をしっかりとっておきましょう。また、授業を自分のものにするために、視点をもって子どもを見るようにし、子どもの内面理解に努めましょう。子どもを理解することは、保育者自身の関わりに目を向けることでもあります。保育は相互理解であり、保育者は子どもと共に育つ関係にあると思います。授業を通して「自分を知る」ことも大切です。

**【備考】**

実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。

令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。

**【担当教員の連絡先】**

担当教員E-mail : gotou@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail :

授業科目名	教育実習指導 I	担当教員名	加来 栄治	単位数	0.5	授業区分	実習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
②教育実習 I に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。									
③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、今後身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】									
この授業は、幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が有意義に行われるように、事前の心構えや指導計画の作成、事前・事後指導を行うものである。									
教育実習 I では、子どもや保育者の観察に重きを置き、①子どもの発達を知る、②子どもの行動と保育者の援助の意図を探る、③保育の流れや段取りをつかみ、保育技術を高めることを重点目標とする。									
幼児の実態に触れ、実習園の様々な幼児教育の取り組みを理解したうえで、自分で考え、行動し、自ら創る学びを大切にしてほしい。また、実習を経験しての振り返りから自己の課題を見出し、次回の教育実習 II へとつなげていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	教育実習 I の意義と目的、内容理解				【事前】 テキスト6P～15Pを通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	附属幼稚園入園式実習				【事前】 身だしなみを整え持ち物、実習内容の確認				
					【事後】 実習記録と振り返りの記入				
第3回	附属幼稚園入園式実習の振り返り、子どもの発達の理解				【事前】 テキスト18P～28Pを通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	教育実習における事前指導①(書類準備等)				【事前】 教育実習の手引きを通読し、教育実習において自己の目的を考える				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	教育実習における事前指導②(実習日誌の書き方)				【事前】 テキスト114P～130Pを通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	指導計画の作成の方法 (ICT等を利用し調べる)				【事前】 幼稚園教育要領解説96P～120Pを通読しておくこと				
					【事後】 年齢別の指導案の作成				
第7回	子どもの行動と保育者の援助とその意図				【事前】 配布資料を通読しておくこと				
					【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第8回	模擬保育 (グループでの研究)				【事前】 指導案確認と教材、シミュレーションの準備				
					【事後】 シミュレーションの振り返り、指導案の改善				
第9回	教育実習直前指導				【事前】 教育実習の手引きの通読、実習内容の確認				
					【事後】 日誌、実習内容の確認、持ち物等の準備				
第10回	教育実習事後指導				【事前】 日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認				
					【事後】 実習先への日誌の提出、報告書の記入				
第11回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)				【事前】 実習内容をまとめ、自己評価の記入				
					【事後】 報告会の記録、内容のまとめ、資料提出				
第12回	教育実習の自己評価と課題				【事前】 教職履修カルテの記入と自己課題の整理				
					【事後】 教育実習 II に向けて、指導計画の準備と課題の確認				
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

**【テキスト及び参考書】**

「教育実習の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）

幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」「幼児理解に基づいた評価」（文部科学省）

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」（チャイルド本社）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

**【学生へのメッセージ】**

附属幼稚園の卒園式見学に続き、入園式実習を行う。幼稚園生活をスタートする子どもとそれを迎え入れる教諭や園の環境構成等の様子がわかる貴重な機会である。その場で感じたことなど体験を実習に活かしてほしい。実習開始までの1ヵ月間を有意義な時間とできるよう準備を早めに行い、分からないことや不安なことは担当まで相談に行くこと。

**【備考】**

実務経験：平成12年4月より現在に至るまで、本校の附属幼稚園である苅田幼稚園で専任教諭として勤務。

令和5年4月より現在に至るまで、本校の非常勤講師として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail：

学校専用E-mail：shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	教育実習指導Ⅱ	担当教員名	加来 栄治	単位数	0.5	授業区分	実習	開講時期	2年後期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習Ⅱに向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。 ③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、教員免許状取得にまでにさらに身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
<b>【授業の概要】</b> 学内で学んだ理論や技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を幼稚園の現場で養い、そして身に付けた知識をより確かなものにしていくことを目的としている。 また新しい幼児教育を研究し、一人一人の子どもに寄り添い、日々の変化と成長を感じ取れる職業である幼稚園教諭のやりがいと責任、専門性を理解するとともに自己の課題を明確にしていくことが重要である。									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	教育実習Ⅱのオリエンテーション (授業内容の概要・幼稚園教諭の職務と役割)			<b>【事前】</b> 教育実習Ⅱにおける自己の目的を考えておくこと <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	教育実習Ⅰの振り返りと課題の確認			<b>【事前】</b> 教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認 <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第3回	教育実習の意義と目的			<b>【事前】</b> 配布資料を通読しておくこと <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第4回	記録の書き方① (子どもの主体性の育ちと保育者の関わり)			<b>【事前】</b> 配布資料を通読しておくこと <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	記録の書き方② (子どもの社会性の育ちと保育者の関わり)			<b>【事前】</b> 配布資料を通読しておくこと <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	模擬保育①(教材研究、グループ研究)			<b>【事前】</b> 年齢別の指導案の作成 <b>【事後】</b> 指導案の教材研究と改善					
第7回	模擬保育②(グループ発表、振り返り)			<b>【事前】</b> 指導案確認と教材、シミュレーション準備 <b>【事後】</b> シミュレーションの振り返り、指導案の改善					
第8回	教育実習直前指導			<b>【事前】</b> 教育実習手引きの通読、実習内容の確認 <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第9回	教育実習事後指導			<b>【事前】</b> 日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認 <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第10回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)			<b>【事前】</b> 実習内容をまとめ、自己評価の記入 <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第11回	教育実習の自己評価			<b>【事前】</b> 教職履修カルテの記入と自己課題の明確化をしておくこと <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第12回	教育実習の総まとめ			<b>【事前】</b> 配布資料を通読しておくこと <b>【事後】</b> 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
<b>【学生に対する評価】</b> 受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

**【テキスト及び参考書】**

「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (フレーベル館)

幼稚園教育指導資料第1集 「指導計画の作成と保育の展開」「幼児理解に基づいた評価」(文部科学省)

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社)

**【学生へのメッセージ】**

教育実習Ⅱは、実習の集大成として取り組むこと。幼稚園の行事の見学やお手伝い等、実習生として積極的に行動していくことが必要。実習を重ねる中で出会った様々な先生方の姿から自分になりたい理想の幼稚園教諭を目指して実習に臨んでほしい。

**【備考】**

但し、この授業は2年前期より実施します。

実務経験：平成12年4月より現在に至るまで、本校の附属幼稚園である苅田幼稚園で専任教諭として勤務。

令和5年4月より現在に至るまで、本校の非常勤講師として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail：

学校専用E-mail：shin@tohaya.ac.jp

授 業 科 目 名	教育実習 I	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> ①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ②保育に必要な基礎的技術(話法、保育形態、保育展開及び環境構成等)を実地に即して身に付ける。 ③幼稚園教諭の役割、及び職務内容を实地に即して理解する。 ④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。									
<b>【授業の概要】</b> 実習は基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指して行う。 実習は、見学・観察実習、参加実習、指導実習など様々な形式で行い幼稚園での保育に積極的に参加し、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と役割や幼稚園教諭の職務内容を学んでいく。 更にこの実習を通して学んだ自己の課題を明確化し、幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。									
<b>【授業計画】</b> 実習園における2週間の実習内容は以下の通りである									
第 1 週	1. 幼稚園の生活と一日の流れを理解し、保育内容について学ぶ								
}	2. 観察と記録、遊びや生活を通して幼児の発達や特性を理解する								
	3. 幼児に対する関わりや保育に必要な基礎的技術等を身に付ける								
第 2 週	4. 幼児の実態等を踏まえた指導計画を作成し、保育を実践する								
	5. 社会人としての基本的なマナーを学ぶ								
<b>【学生に対する評価】</b> 実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
<b>【テキスト及び参考書】</b> 「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社) 「こどものうた200」(チャレンジ本社)									
<b>【学生へのメッセージ】</b> 教育実習という貴重な体験を生かし、多くの子どもと積極的に触れ合い、子どもの興味や関心、発達を知り、子どもへの理解を深めること。幼稚園教諭の職務を理解し、社会人としての基本的なマナーや「報告」・「連絡」・「相談」(ほう・れん・そう)を厳守すること。									
<b>【備 考】</b> 実務経験：平成12年4月より現在に至るまで、本校の附属幼稚園である苅田幼稚園で専任教諭として勤務。 令和5年4月より現在に至るまで、本校の非常勤講師として勤務。									
<b>【担当教員の連絡先等】</b> 担当教員E-mail：									
学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp									

授 業 科 目 名	教育実習Ⅱ	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 後 期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> ①個々の幼児の発達、内面の変化、個性の理解を深め、適切に幼児と関わるができる。 ②幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ③幼稚園教諭の役割及び職務内容を実地に即して理解し、他の教職員との連携を身に付ける。 ④保護者や地域の子育て支援、幼児期の教育のセンターとしての社会的役割を学ぶ。									
<b>【授業の概要】</b> 基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指す。又、幼稚園の通常の教育活動及びそれ以外の行事等の活動を通して、教育的愛情や教育に対する使命感や責任感を養うことをねらいとし、実習園の行事や実習生の状況に応じて、観察・参加実習、責任実習など様々な形で実習を行う。 この実習を通して学んだ自己の課題を明確化し幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。									
<b>【授業計画】</b> 実習園における2週間の実習内容は以下の通りである									
第1週	1. 幼稚園教諭としての必要な知識、能力、技術を習得する 2. 幼児の発達、内面の変化、個性についての理解を深める 3. 教職員との連携、協力体制の重要性について理解する								
第2週	4. 観察と関与、記録、指導計画に基づく実践を通して保育技術の伸長を図る 5. 地域の子育て支援、幼児期の教育センターとしての社会的役割を理解する								
<b>【学生に対する評価】</b> 実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
<b>【テキスト及び参考書】</b> 「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社) 「こどものうた200」(チャイルド本社)									
<b>【学生へのメッセージ】</b> 教育実習Ⅰと同じ実習園で行う。その為、子どもたちの成長に大いに喜びを感じる実習であり、行事等の関わりを通して子どもの発達や幼稚園教諭の職務をより理解することができる。臨機応変に対応する行動力や積極性も求められる。「自分が今できることは何か」を考えて実習先の教諭と相談しながら積極的に行動していくこと。									
<b>【備 考】</b> 実務経験：平成12年4月より現在に至るまで、本校の附属幼稚園である苅田幼稚園で専任教諭として勤務。 令和5年4月より現在に至るまで、本校の非常勤講師として勤務。									
<b>【担当教員の連絡先等】</b> 担当教員E-mail：									
						学校専用E-mail：shin@tohaya.ac.jp			



授業科目名	教職実践演習（幼）	担当教員名	後藤 伸子他	単位数	2	授業区分	演習	開講時期	2年後期
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>									
①教育実習、保育実習等の現場体験の成果を振り返り、既習の授業や活動を通して教員としての資質が身に付いているか等、学生が自己の課題に気づき問題解決していく。									
②教員になる上で、不足している知識や技能等を補い知識・技術や教養の定着を図る。									
③学生一人一人の履修を把握し、将来幼児教育に携わる者としての自覚や実践的指導力を身に付ける。									
<b>【授業の概要】</b>									
授業を進めるの当たっては、一人一人の学生が積極的に学習内容に関われるよう、グループを中心に展開し、コミュニケーション能力や観察眼の育成に努める。大きくは以下の3点の内容をもとに取り組む。									
①乳幼児の理解を深めることを通して、学級経営力や人間関係能力の育成。									
②乳幼児の発達と保育内容との関連を学ぶことを通して、幼児期にふさわしい生活の具現化の考察。									
③具体的な事例をもとに、教員としての責務及び役割について考察。									
<b>【授業計画】</b>					<b>【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】</b>				
第1回	オリエンテーション、既習の授業や教育実習Ⅰでの学びの成果と課題の把握（履修カルテを持参）			【事前】 教職履修カルテの記入をしておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	教育実習Ⅱの振り返り（実習記録などを準備） 教育実習Ⅱを通しての自己課題の確認			【事前】 実習日誌、実習記録等の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第3回	教育実習Ⅱを通して体験した事例についてのグループ討議（討議内容をまとめ、発表準備）			【事前】 自分の実習内容をまとめておくこと 【事後】 授業レポートの作成、発表準備					
第4回	実習を通して体験した事例についてのグループ発表			【事前】 発表内容をまとめておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	教職の意義・役割・職務内容についての確認			【事前】 ITC等を使用し、教職について事前に調べておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	指導案の作成			【事前】 年齢別の指導案の作成 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第7回	指導案の仕上げ及びグループ内でのシミュレーション			【事前】 年齢別の指導案の作成 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第8回	模擬保育発表①			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第9回	模擬保育発表②			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第10回	模擬保育発表③			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第11回	模擬保育発表④			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第12回	模擬保育発表⑤			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第13回	苧田幼稚園における模擬保育発表			【事前】 実践発表の準備 【事後】 実践発表の振り返りと自己評価を記入					
第14回	苧田幼稚園にて設定保育1・2限			【事前】 実践発表の準備 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第15回	幼稚園の基本を踏まえた教育の大切さの確認・まとめ			【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、課題レポートの作成					

**【学生に対する評価】**

発表内容（40%）、提出物（40%）、受講態度（20%）などによる総合評価

**【テキスト及び参考書】**

幼児理解に基づいた評価（文部科学省）、適宜資料を配布

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月 文部科学省）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）

**【学生へのメッセージ】**

グループ活動や保育案づくり、設定保育などを通して、他の人の考え方に触れ、自分自身の課題を確認するとともに課題解決のために、積極的にコミュニケーションを図ったり、他の人の良いところを自分の中に取り込んだりするようにしましょう。

**【備考】**

教員の連携・協力体制

幼稚園や保育所の実習担当教員、教科担当とも連携し、演習の推進に当たる。また、附属幼稚園の先生方の協力を得て、より具体的な実践演習や保護者との対応なども取り入れる。

実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。  
令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail：maruta@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授業科目名	保育実習Ⅱ	担当教員名	後藤 伸子	単位数	2	授業区分	実習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 一人一人の子どもの観察や関わりの視点を明確にし、発達や個性を捉え保育の理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、実践、観察、記録及び、自己評価等について実践に取り組み、理解を深め指導技術を習得する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>6. 保育士として自己課題を明確化する。</li> </ol>									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育士として必要な姿勢や態度及び指導の方法・技術等を習得するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。</li> <li>・ 「保育実習Ⅰ（保育所）」での保育所実習の経験をもとに、自ら実習先保育所を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、課題等より深く理解する。また「養護と教育が一体的に行われる」という保育の原理・社会的役割を具体的実践から学び取る。</li> </ul>									
【授業計画】									
第1週	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開を学ぶ。○保育全般に参加し、保育技術を習得する。</li> <li>2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を学ぶ。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。</li> <li>3. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する。</li> <li>4. 子どもの家庭とのコミュニケーションの方法や保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実際を学び理解する。</li> <li>5. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。</li> <li>6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の在り方を学ぶ。</li> <li>7. 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する支援の実際を理解する。</li> </ol>								
第2週	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 保育士の業務と職業倫理を理解する。多様な保育の展開と保育士の業務・職業倫理を理解する。</li> <li>9. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。</li> </ol> <p>（実習期間）（実習園）別途記載する。</p>								
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況を合わせた総合評価。									
【テキスト及び参考書】									
「実習日誌の書き方」（一藝社）「保育指導案大百科事典」（一藝社） 「全国保育士倫理綱領ガイドブック」（全国社会福祉協議会） 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」「認定こども園教育・保育要領」「認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）「保育実習（保育所）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
【学生へのメッセージ】									
保育実習Ⅱでは、保育所の役割や機能、保育の計画－実践－記録と省察について、実際に体験しながら理解を深めることが求められます。これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験をふまえて、総合的に保育をとらえる意識を実習に臨みましょう。また、「入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援」や関係機関や地域社会との連携・協働については、特に積極的に実習園の先生方にお尋ねしないと理解や学びを深めることが困難です。自ら学ぼうとする意欲、指導を素直に受け止める態度は、実習生として大切な姿勢です。また、「保育者は、子どものモデルである」ことを日ごろから十分に意識し、物事の捉え方、言葉遣い、所作を意識しましょう。学生同士で成長し合える授業にしていきたいと思います。									
【備考】									
※保育実習Ⅰの自己課題を踏まえ、Ⅱの実習に反映させる必要があります。実習の目的と内容は、連続性を持ちなが発展していくものとなっています。より充実した実習内容となるよう努力していきましょう。									
実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。									

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail : gotou@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	担当教員名	後藤 伸子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①保育実習Ⅰ（保育所）の自己課題を踏まえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。養護と教育が一体的に行われる保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学び取る。									
②保育の計画、実践観察、記録等について実際に行う中で、理解を深め指導技術を習得できるようにする。									
③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。									
④一人一人が発表する場を設け、表現力や実践力が養えるようにする。									
⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。									
【授業の概要】									
・実習という具体的な実践の中で、子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解や保育所の役割機能についての理解が深められるようにする。									
・既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶ。									
・保育の計画を立て、実際に設定保育を実践する。記録には、的確な記述が求められるが、その為の観察眼の育成やコミュニケーション能力の育成に努める授業の中で、自分とは違う他者への思いやり等の育成に努める。									
・具体的な実践と結び付ける中で、保育士の業務内容や、職業倫理について学びを深めるとともに保育士としての自己課題を明確に意識できるように努める。									
【授業計画】					（事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容））				
第1回	オリエンテーション（授業内容の概要等について） 保育実習Ⅰの振り返り			【事前】保育士会倫理綱領（P10～P34）を読んでおく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第2回	保育実習Ⅰの振り返り及び実習報告会			【事前】保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認する。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第3回	課題作品を使つての演習			【事前】課題作品を使つての演習の練習 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第4回	保育実習Ⅱの意義と目的			【事前】保育実習Ⅱも自己評価表を見直しておく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第5回	実習日誌の書き方について①			【事前】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読んでおく。 【事後】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読み理解する。					
第6回	設定保育について			【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】子どもの主体的活動を促す遊びについて整理する。					
第7回	子どもの主体性を育てる保育とは？			【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】「保育所保育指針」の指定された箇所を読んでおく。					
第8回	子どもに応じた適切な関わり			【事前】授業の振り返り「保育所保育指針」第2章を読む。 【事後】授業の振り返りとまとめをする。					
第9回	実習のための書類作成			【事前】「実習の手引き」の紹介表、誓約書等の書き方を読んでおく。 【事後】下書きの清書を仕上げしておくこと。					
第10回	シミュレーション（模擬保育）			【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。					
第11回	シミュレーション（模擬保育）			【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。					
第12回	シミュレーション（模擬保育）			【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。					
第13回	実習直前指導			【事前】「実習の手引き」の指定された箇所を読んでおく。 【事後】指導案見直しをする。					
第14回	事後指導①（課題の明確化）			【事前】実習施設及担当教員に提出する書類を整えておく。 【事後】お礼状の清書、封筒あて名書き投函準備をする。					
第15回	事後指導②（実習報告会）			【事前】報告会準備をする。 【事後】教育実習Ⅱに向けた自己課題の明確化					

**【学生に対する評価】**

受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価

**【テキスト及び参考書】**

「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)

「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」(フレーベル館)

「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」(一藝社)

「新聞紙で遊ぼうⅡ」(かもがわ出版) 全国保育士会倫理綱領ガイドブック(全国社会福祉協議会)

**【学生へのメッセージ】**

受講、実習に対する意欲や積極性は、何より大事です。また、実習内容のⅠとⅡの違いをを明確に意識し、連続性を持たせながら実習内容が深まり、確かな保育力に繋がるよう努力してください。結果として、自分の保育者としての自信に繋がることを信じて頑張りましょう。

※事前学習や事後の振り返りを丁寧に行い、主体性をもって意欲的に取り組む姿勢が何より大事です。

**【備考】**

保育実習Ⅰの実習日誌、実習報告書・自己評価を授業に使用します。いつでも使用できるよう準備をしておいて下さい。

実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。

令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。

**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail:gotou@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業科目名	子ども家庭支援論	担当教員名	河合 倫子	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。									
②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。									
③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。									
④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭支援の意義と役割また、保育士による子ども家庭支援の在り方を理解できるようにする。</li> <li>子どもを中心に据えた子育て支援のイメージができるように教科書を中心としながら資料やDVDを利用し進めていく。</li> <li>観察のポイントを押さえた上で、子育て支援施設を見学し、振り返りのまとめやグループワークの中で施設の役割を明確に認識する。また、虐待については、DVDや演習を通し、機関との連携の実際を理解できるようにする。</li> <li>コミュニケーション能力の育成や他者への配慮・思いやりの育成を図る。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を、演習を通し理解させ、子ども家庭支援の現状と課題を理解できるようにする。</li> </ul>									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 家庭とは何か？ 家庭の意義とその機能 第12章子育て・子育て観				【事前】 ICT使用し、現代の家族について調べる。				
					【事後】 授業の振り返りと、教科書のはしがきを熟読する。				
第2回	1. 子ども家庭支援の意義と役割 (1) 子ども家庭支援の意義と必要性				【事前】 第2章支援を必要とする家族・家庭の背景と子育て施策を読む。				
					【事後】 授業の振り返りと、教科書のはしがきを熟読する。				
第3回	(2) 子ども家庭支援の目的と機能				【事前】 第12章①本書が依拠する子育て・子育て観を読んで理解する。				
					【事後】 授業の振り返りと子育て・子育て支援の当面の課題を読んでおく。				
第4回	第2部 支援を必要とする子どもと家族・家庭 (1) 家庭での育児を支える・保育所における子育て支援の実際				【事前】 第5章・第6章を読む。				
					【事後】 授業の振り返り				
第5回	(2) 子どもの育ちの喜びの共有				【事前】 第3章を読んで理解しておく。				
					【事後】 権利主体としての子どもをどのように考えるかを書く。				
第6回	(1) 障がいがあるということをどのようにとらえるか (2) 障がいがある子どもとの生活				【事前】 第7章 障害のある子どもについて読んでおく。				
					【事後】 障害のある子どもを持つ保護者について考えをまとめる。				
第7回	1. 子どもの貧困 (1) 貧困ライン (3) 子どもの貧困の具体像 2. ひとり親家庭への支援				【事前】 第8章 子どもの貧困とその家族・家庭への支援を読んでおく。				
					【事後】 振り返り				
第8回	・虐待の種類・虐待を引き起こす要因(プリント配布) ・虐待への対応(演習)・関係機関との連携の実際 ・参考資料での演習				【事前】 ICT使用し、虐待の実態や関係機関を調べる。				
					【事後】 演習を振り返り関係機関との連携について押さえる。				
第9回	養育困難家庭への支援の実際 専門機関の連携				【事前】 第9章 養育困難家庭への支援の実際を読む。				
					【事後】 授業の振り返り				
第10回	子育て家庭に対する支援の体制 校外学習～子育て支援施設見学 (子育て家庭の福祉を図るための社会資源)				【事前】 配布プリントにて、施設見学の見る視点をまとめておく。				
					【事後】 キャッチコピーを考え作成し、施設の内容等まとめる。				
第11回	子育て支援施設見学の振り返り グループワークを通し、他者理解やコミュニケーション能力を養う。 (専門性に繋がる)				【事前】 効果的プレゼン方法をグループで考え発表内容等作成する。				
					【事後】 グループ成員のよさを確認し、他のグループの評価を行う。				
第12回	子育て支援施設振り返り発表 子育て支援施策・次世代育成施設の推進				【事前】 伝わりやすい発表となるよう話し合い、練習しておく。				
					【事後】 発表を振り返り、保育者としてどのように生かすかを考える。				
第13回	保育所における保護者に対する支援の基本 入所する保護者に対する支援(資料配布) 地域の子育て家庭への支援(資料配布)				【事前】 保育所保育指針 第4章子育て支援を読んでおく。				
					【事後】 授業振り返り及び幼保連携認定こども園教育・保育要領を読む。				
第14回	チャイルド・マルトリートメント(資料配布) 要保護児童等及びその家庭に対する支援(ICT活用)				【事前】 事前配布の資料に目を通す。				
					【事後】 授業振り返り大事な箇所をまとめる。				
第15回	子ども家庭支援に関する現状と課題 まとめ				【事前】 第12章をまとめる				
					【事後】 授業の振り返り 押さえるべき内容を書き出す。				

<p><b>【学生に対する評価】</b>  定期試験（70％） レポート提出（20％）、小テスト、受講への積極性（10％）などによる総合評価</p>
<p><b>【テキスト及び参考書】</b>  「子ども家庭支援論」 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月 告示 内閣府）（フレーベル館）  「全国保育士会倫理要綱ガイドブック」（全国社会福祉協議会）  「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）  「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）</p>
<p><b>【学生へのメッセージ】</b>  子どもを取り巻く社会は、年々変化しています。そうした変化をニュースや、新聞で把握し、家庭支援の実際に結び付けて考えて行くことが大切です。様々な社会事象に興味や関心をもてるようにしましょう。  子どもの最善の利益のために何ができるのかを考え、地域の資源や社会資源等についても情報を取り入れる努力をしましょう。</p>
<p><b>【備考】</b>  ※予習として、次回のテーマに沿った自主的学び（報道・本・教科書・参考書等）をし、授業後は、必ず復習すること。  保育界も子どもを取り巻く様々な状況や環境と無縁ではありません。世の中の動きや、世界の中の日本の様々な在り方等様々な事柄に関心を持つ姿勢が大事。</p> <p>実務経験：昭和52年4月より平成23年3月まで（33年間）、北九州市福祉事業団の保育所にて保育士として勤務。  平成23年4月より現在に至まで、本校専任教員として勤務。</p>
<p><b>【担当教員の連絡先等】</b>  担当教員E-mail:kawai@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:</p>